

# 平成 24 年度 第一部会技術分科会 活動報告 (概要)

平成 25 年 6 月  
一般社団法人 日本消火装置工業会

## 1. 委員会

### (1) 委員構成

17 社 17 名で構成

### (2) 開催回数

定例会 (原則 1 回/月) 9 回 + 合同委員会 1 回 = 計 10 回 ※定例会は 3 回休会

## 2. 審議・確認事項

### (1) 東京消防庁予防部予防課長通知 (23 予予第 1162 号) の疑義について (H24. 4)

基準の特例を適用した流水検知装置を用いるスプリンクラー設備について、23 予予第 1162 号にて東京消防庁の運用方針が示されたが、一部疑義があったため、第一部会で問い合わせ対応を行った。

### (2) ハウジング形継手の耐熱性実験 (H23. 4~H25. 3)

ハウジング継手を乾式配管で使用する場合、火災時の熱によりゴム製のパッキンが大きなダメージを受けるおそれがあることから、当工業会では乾式配管での使用を自粛している。一般的に流通している製品がどの程度の実力を有しているか確認するため、平成 24 年 9 月に日本ドライケミカル株式会社の研究棟を借用し、耐熱性確認実験を行った。今回の実験結果ですべてを判断することはできないが、得られた結果は良好であり、本格的に研究する価値があるものと認められた。実験報告書は平成 25 年 3 月に完成、実験関係者や関係団体に配付、公的な検討を促す活動へ移行した。

### (3) 負圧湿式予作動式スプリンクラー設備に使用できるスプリンクラーヘッドの工業会自主基準の検討 (H23. 10~H25. 3)

負圧湿式予作動式スプリンクラー設備に使用できるスプリンクラーヘッドにかかる工業会自主基準の検討を平成 23 年 10 月より開始した。試験基準は、作業部会を立ち上げて検討し、平成 24 年 11 月に完了した。その後、自主基準の運用方法や、HP での公開方法を第一部会で検討し、平成 25 年 3 月までにすべての対応を完了した。

### (4) 東京消防庁予防事務審査検査基準の疑義について (H24. 8~H25. 3)

改訂第 10 版において、予作動弁制御盤の設置位置や機能について規定が追加されたが、規定の趣旨に対して、現状の設備または機器でも十分に補完できると判断、当該規定部分の改訂を申し入れた。結果、次年度版 (改訂第 11 版) で工業会意見を反映する方向で検討してもらえることになった。

## 3. 関連作業部会

### (1) 消火設備設計・工事基準書改訂編集 WG1

- ・平成 24 年度は、全 12 回の WG が開催された。
- ・現在、スプリンクラー設備設計・工事基準書の修正原稿を審議中。
- ・スプリンクラー設備設計・工事基準書の改訂版の発刊は平成 26 年度内の予定。

### (2) 負圧環境下でも使用可能なスプリンクラーヘッドの評価基準検討 WG

- ・平成 23 年 10 月の発足以来、全 9 回の WG が開催された。
- ・当初の完了予定は平成 23 年 3 月であったが、試験条件等に疑義が生じ、実験による確認等が急遽追加されたこともあって、最終的に平成 24 年 11 月の完了となった。
- ・自主基準案を第一部会へ提言、第一部会で承認されたことにより、WG を解散した。

以 上